



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第19号

徳島 1916年1月30日

在外ドイツ人（1）

在外ドイツ人についてもっと正確に観察することができるためには、まず最初に二つの基本的な相違点をはっきりさせなければならない。そして、一方ではドイツ人種としてのドイツ人と、他方ではドイツ帝国の一員であるか、あるいは一員であったドイツ人とをはっきり区別しなければならない。

まず第一に、われわれはホーエンツォレン家の王冠のもとに住んでいないドイツ人、すなわち帝国ドイツ人ではないがドイツ風の名前を持ちドイツ語を話すドイツ人に注目し、彼らが、居住している国でどのような政治的役割を演じ、われわれの存在をかけた戦いにおいてわれわれに対してどのような態度をとっているのかを見てみよう。

ドイツ風の名前を持つ人びとが多数結集している第一の国家として、わ

われわれの誠実な同盟国オーストリアを挙げなければならない。1806 年までのハプスブルク家はドイツの帝冠を戴き、その後も 1866 年まで、オーストリアはなおドイツ諸国家〔ドイツ連邦〕の間で覇権国家とみなされた。この事実を想起すれば、多くの読者はオーストリアが真のドイツ国家であるとの印象を持つであろう。しかし、この印象は正しくない。それどころか、ドイツ人はオーストリアの王冠を戴いた国々のなかで一度も多数を占めてさえいなくて、オーストリアの非ドイツ系民族が全人口の約半数以上を占めているからである。

こうした他のオーストリア民)として、とりわけポーランド人、ルテニア人、チェコ人、スロバキア人、クロアチア人、ダルマチア人を挙げることができる。

オーストリアのドイツ民族は常に精神的指導を行ったし、今日でもなお行っている。1866 年以降の彼らの政治的重要性は、一部分は憲法体制の変更によって、一部分は他の諸国によるドイツ民族に敵対する結束した組織的な運動によって、著しく失われた。そのことによって、ドイツ民族のオーストリア政界への影響の退潮を歴史的展開の中で立証するのは、あまりにくどくなるであろう。ドイツ民族は抜きん出て強く、かつあらゆる点でオーストリアの諸民族のなかで最も重要であるにもかかわらず、この国の政治にはもはや無条件に決定的影響を与えてはいないという事実、に、当分われわれは満足しなければならない。しかし、戦争が変化をもたらすと思われる。オーストリアの全人口 3,000 万人のうちおよそ 1,450 万人がドイツ民族で、彼らはオーストリア全土に住んでいる。この戦争で、ドイツ・オーストリア人がどのような態度を取ったかについて、もはや触れる必要はない。というのは、オーストリア・ハンガリーは最初からわれわれと互いに協力して戦ったからである。今日、われわれの利害はオーストリアの利害であり、われわれの勝利はオーストリアの勝利である。

まことにもっともなことだが、人口構成の点でオーストリア以上にドイツ的国家と言える最も親しい関係にある国がスイスである。

900年12月1日の統計によれば、スイスには331万5,000人が住んでいて、そのうちドイツ系が231万2,000人、フランス系が730,000人、イタリア系が22万人であった。したがって、スイス全人口の3分の2以上がドイツ人であり、われわれと同じ言葉話す。中世にスイスはドイツ帝国に所属していたが、ドイツ帝国、とりわけハプスブルク家と何度も対立した。スイスが帝国から最終的に分離したのは、1648年であった。スイスは政治的にわれわれとは異なる独自の道を歩んだが、文化的にスイスのドイツ人はわれわれと共に精力的に仕事をしたので、ドイツ精神の偉大さの多くはスイス人のおかげである。

現在の国際紛争において、スイス人は絶対的中立を維持する術を心得ており、ここから観察する限り、その中立は思わず感嘆せざるを得ないやり方であると評価することができる。スイスの住民はドイツ人、フランス人、そしてイタリア人から構成されていることを顧慮すれば、実際の中立という狭き道にいつまでも留まるのは、確かに常に簡単なことではない。しかし、スイスはそのことを遣り遂げた。そして、スイスに隣接し戦争を行っている諸国家は、スイスがしてくれた、敵味方いずれの側にも同様にためになる多くの価値ある奉仕に対して、感謝しなければならない。われわれはこのことと関連して、負傷した戦争捕虜の交換、捕虜用郵便等の配慮にのみ言及したい。スイスのドイツ人に関して言えば、せめて彼らに望むのは、われわれを、すなわちわれわれ帝国ドイツ人を今まで以上にもっとよく知り、そのことによってわれわれをもっと高く評価するようになってほしいということである。というのは、ほとんどのスイス人は、ドイツ帝国に対してあまり親しみを感じていないと言わざるを得ないからである。

つづく

日本の神々と神話（1）

日本人の信仰が天と地に住まわせている神々は非常に多い。最も多様な姿が創り出されるなかで、本来の国民宗教も、後になって導入された外国の宗教的観念も、極めて多様な姿の神を創造するこの民族の活発な想像力に枷をはめるようなことはなかった。神道と仏教という重要な二つの宗教の間には明確な区別が存在したことはなかったので、個々の神々がどちらの宗教に属しているのかを確定するのはなかなか困難であるし、国民もまた崇拜の点で大きな区別をしていない。

神道の主なる神は太陽女神、天照（アマテラス）である。彼女は伊勢地方の山田市に本院を持つ。その太陽女神には、あらゆる悪人の典型である弟スサノオがいる。かつて太陽女神は弟の質の悪い悪戯にすっかり怒り、地上の洞穴に這入り込み、他の神々のどんな願いにもかかわらず、自分の意思で入ったその牢獄から出ようとしなかった。天と地上は真っ暗だった。その間ずっと悩んだ神々は、遂にこの耐えがたい状態を終わらせ、怒った女神を策略によって隠れた場所から誘き出す決心をした。彼らのなかの一人は彼女がいる入り口で待ち伏せするよう求められる一方、他の神々は彼女の女性らしい好奇心を呼び覚まそうとした。そうすれば、何が起きているのかを確かめるために、きっと彼女は自分で扉を開けるだろうし、次いでそこから楽々と彼女を運び出すことができるだろうと彼らは思った。そこで、洞窟の前で陽気な歌が歌われ大規模な宴会が催された。だが天照は何の関心も示さなかった。神々が芸達者な女性ダンサー、うずめのダンス技術に拍手喝采を送った時でさえそうだった。しかし、うずめの踊りに対して神々が鳴り響くような笑い声を発した時、天照は自分を抑えることができなくなり、ほんの少し扉を開け、なぜ皆がそんなに笑っているのかと尋ねた。その時彼らは彼女にこう答えた。彼女自身と同じように光り輝く女神がもうひとり存在していると。そして、彼らは彼女の前に一つの鏡をさし出した。天照がいぶか；訝しがってその鏡を覗き見た時、待ち構え

ていた男性の神が彼女を掴まえ、隠れた場から彼女を完全に引き出した。入り口の前で彼は一本の藁縄を結んだ。それによって祓い清められた場所が封鎖されるのが常だったので、彼女は引き返すことができなくなった。かくして、天と地上は再び生を授ける光を取り戻した。中国風新年の時期、物を暖める太陽光線によって再び新しい生命が誕生するとき、家々の飾りに微笑み頬のふっくらとしたうずめや阿亀のマスクを添えるのを常としている。それはおそらく日光の帰来がとどのつまり、うずめや阿亀のおかげであることを思い起こしているからなのである。

皇帝誕生日の祝賀会

まさに故郷で催されるのと同じように、皇帝陛下誕生日の祝賀会が帰営ラッパと共に、1月26日夕刻に開始された。松明の代わりに、燃える蠟燭を手にした歌手たちの情緒豊かな歌と旧知の祝典音楽はピタリと調和した。

翌日午前10時にミサが行われ、それが終わると海軍大尉デュムラー殿のスピーチがあった。

「戦争がもたらした傷を癒すために静かに祈り、気前よく施してこの日が過ごされることを願いたい」。これが、われらの皇帝が誕生日に表明された願いである。

彼はドイツ国民軍の指導者として、全ドイツ帝国と全ドイツ国民を代表する人物として、自己に課せられた崇高な責任を完全に自覚している。そして、何よりもまず自分だけではなく、全てのドイツ国民のために今何をなすべきかを彼らはよく理解している。

今は、喜々とした色彩豊かな祝典が許される時代ではない。とはいえ、現下においてその祝典は最大の祭りであり、人びとが考え出すことができ、開催することができるもの以上の祭りである。燃えあがる世界大戦の炎が

ヴィルヘルム二世とホーエンツォレルン家の名前を光り輝かせている。世界がこれまで眺めてきたこの途方もない出来事のなかで、栄誉と勝利において、世界のすべての支配者や王族たちのなかから燦然と際立つのが、皇帝ヴィルヘルム二世であり、ホーエンツォレルン家なのだ。

ニュルンベルク城伯一族がブランデンブルク選帝候として辺境地方へやって来てから、今や500年が経過した。その間、辺境地方を含むプロイセンが発展し、ドイツ帝国となった。500年の間、帝国が権力の頂点に上り詰めるまで君主と国民は相互に高め合い、今や頂点に立った帝国がその地位を維持するばかりか、なお力を増大させることを神はお望みなのである。

この戦争によって、正当にもわれわれは再び君主の家系に目を向けることになった。とりわけ、戦争では厳格な軍隊的君主制の規律が前面に打ち出され、それを外国人はドイツ国家のなかで最も独自のものとして受け止めている。今日、われわれはそれ無しではやっていけないだろう。そして、その規律によってわれわれは、わが身をホーエンツォレルン家に捧げているのである。周知のように、それは世間で言われているような意志に逆らった強制としての軍国主義ではない。子どもの頃、兵隊ごっこが好きでなかった人があるだろうか。軍服を身につけることができたようになったとき、誇らしく思わなかった人があるだろうか。だが、われわれが今まで以上に知っているのは、武装し軍事的訓練を受けた国民のみが敵のそうしたもののすごい優位性に耐えることができるということである。こうして、敵によって取り囲まれたドイツを、軍事的に育成する必要性があらためて確認されたのである。これまでの反軍国主義者が言った、「君たちが何と言おうと、今私はヒンデンプルクのもとに馳せ参じる」という言葉ほど、このことをうまく的確に表している言葉はない。

義務意識、責任感、実践感覚、粘り強く耐え抜く力、そして行動力、これらは常にホーエンツォレルン家の美德であり続け、歴史を持っているのである。そしてそれと分かち難く結びついたドイツ史をさん燃と輝かして

いるのである。近代に近づけば近づくほど、国土と国民の共同、君主と民族の協力はますます強まっている。相互理解がますます進む兆しが見られる。あらゆるドイツ人男性と同様に、今日もまた君主が戦場にいるのをわれわれは知っている。あらゆるドイツ人女性と同様に、皇后もまた、「私の夫は戦場にいる」と発言されている。

そして今、ドイツ人にとって最も困難な日々にあって、ヴィルムヘルム二世が帝国の頂点に立ち、堂々とした偉大な前進を行っているのをわれわれは真の当たり前にしているのである。われわれは彼から何を得たのかを知っている。だから再び真相が明らかになったのである。戦争の勃発と共に、突然全ての誤解が解けた。今われわれは、ヴィルムヘルム二世が常に誠実に最善を尽くしたということを十分知っている。彼は平和の維持に向け常に変わらぬ努力をし、いつの日か平和皇帝と呼ばれること以外何も望んではないということをわれわれは知っている。ただただ人のために、彼はドイツの力を強化しているのだが、それというのも平和を押しつけることを望まないためである。われわれは次のことを知っている。最近、状況は時々耐え難くなり、「戦争なしにはうまくいくことができないのであれば、むしろ戦争があった方がよい」と、責任ある政治家や将校たちが遂に口にしたことを。だが、その時でさえ、皇帝は平和の意志を常に押し通そうとしたことを。このことを熟知しているからこそ、皇帝が1914年8月に重苦しい気持ちで刀を抜いた時、国民の同情が大挙して彼に集まったのである。ドイツ国民は、歴史がかつて知らなかった程に、打って一丸となって彼を支えている。そうした素晴らしい行為を成し遂げることができたことは、非常に重要である。君主と民族が共同し、一つになって作業していることに世界は驚いているのである。

全てのドイツ人に対し誹謗中傷がなされているが、さらにそれが増幅され皇帝に向けられている。皇帝は自分の示す誠実な最高の意志に反し、外国の玉座にいる同じ身分の者たちから裏切られていると感じているが、そのことを深刻かつ痛切に受け止めれば受け止めるほど、皇帝のそうした感

情はますます強くなっている。だがそれ以上に、彼を誉め称えている 7,000 万人の同胞民族の、すなわち彼の国民の愛と尊敬が今はっきりと彼に捧げられている。度重なる成果を挙げ、武装した国民の愛と尊敬が彼に捧げられている。われわれの勝利によって彼は榮譽の冠を被り、彼のもとに団結した国民の成果が全ての積み重なり、記念碑として彼に献げられている。

君主にとって、国民が自らに向けられた信頼を期待以上に満たし、その信頼をまるまる愛と尊敬の気持ちで答えるのを見るほどすばらしく、偉大な体験はない。声高に表明された喜びや華麗な下げ飾りはないけれども、それでは測れないものがなおさら心の奥底まで響き、誠実さを一段と高め、われわれの偉大な皇帝に対して、すなわち全てのドイツ人男性の手本に対して抱く大きな尊敬の念を強めかつ深めている。この感情に包まれて、皇帝陛下はこの日を祝うであろう。

彼がわれわれにとってどのような存在であるかについて、おそらく最も的確に言い表しているのは、「もしドイツが共和制になるなら、ドイツ人はヴィルムヘルム二世を即刻大統領に選出するであろう。」とのベルギーの女性著述家の言葉であろう。

われわれもまた故郷から離れたこの地で、今日、彼への愛と尊敬の記念碑を心のなかに創設し、そして変わることをない真のドイツ的な男らしい忠誠心で彼のことを思い続けよう。皇帝陛下、すなわちこの上なく恵み深いわれらの皇帝にして最高司令官ヴィルムヘルム二世、万歳。

11 時に、われらの体操協会は最初の模範演技会を開催した。素晴らしい晴天に恵まれ、オーケストラの音楽に乗せて演じられた徒手体操と棒体操は、とりわけ魅力的で見応えがあった。

7 時に始まった夕刻の実演にもわれわれの選手が参加し、傑出した演技を披露した。レンケルー等兵曹殿の指揮のもとに 16 名の海軍砲兵が演じ

た旗竿を持つての輪舞は、体操選手としての熟練度と確実性を要求するものであった。十分な稽古が行われていたため、全てが素晴らしく旨く運び、演技者がもらった大喝采はしごく当然のことであった。

それに続いて上演されたのは、ルフが書いた3幕から成る戯曲『戦争花嫁』であった。この戯曲は、この戦争の開始時にブレーマーハーフェンで上演された。

チャーミングな娘（カイク）の父であり、年老いた水先案内指揮官であるラルセン（ハインツェル二等兵曹）は、年老いた実直な水夫である。彼は、新しい時代とその技術的成果に馴染むことができなかった。とりわけ、彼は全てのドイツ海軍が気に入らず、その将校を自分の考えるような水夫とみなそうとしなかった。それゆえ、彼の娘を老朽化した船の老練な船員である水先案内人ラスムッセン（ヤーン二等兵曹）と結婚させることが、彼のお気に入りのアイデアだった。その時、Uボートの艦長である海軍大尉マッティヒセン（ホルトカンプ）が乗り物に乗ってブレーマーハーフェンへやって来て、その水先案内指揮官と知り合いになった。それがもとで、やがて彼の娘とも知り合い、その娘が彼のUボートを訪問する程の仲になった。あらゆる女性らしい美徳と魅力を持つ、非常に裕福な娘エルセに即刻彼が惚れ込み首ったけになったとしても、誰が彼を恨むことができようか？しかし、そうこうするうちに政治の雲行きはますます怪しくなり、丁度彼がラルセンのもとを訪問した時に動員命令が彼に下った。こうした状況によって次のことは説明がつく。すなわちマッティヒセンは、戦争という不確定な運命を迎える前に、自分の心情にかかわる問題を処理しなければならないということである。しかし、ラルセンは古くからもっていた偏見のために、マッティヒセンと自分の娘との婚約に同意することを拒否した。それゆえマッティヒセンは水夫全員を意のままに動かすことができることをともかく証明しなければならなくなった。やがて彼は、三隻のイギリス巡洋艦を沈没させるという素晴らしいやり方でこのことを証明した。したがって、老ラルセンでさえもはや反対することができず、鉄十

字勲章で飾られたマットヒーセンがしばらくの後再びブレーマーハーフェンに帰って来た時に婚約が結ばれたのである。

戯曲の筆致は軽快で、演技はこの上なくうまかった。すでに述べた主な出演者の他に、なお、ルフが水先案内人として、ランペは飲食店の主人として、シュルツが船長ディルクセンとして登場した。水夫役のスクリュプスコヴィアは、挿入歌「歌手の呪い」で特に評判がよかった。舞台装置、とくに第一幕の水夫の居酒屋は非常に魅力的で、入念に準備されており、作者と出演者は盛大な拍手を浴びた。

引き続きその夕刻に、少なからぬ人には周知の短い戯曲『壊れた鏡』が上演された。時刻が経過しているにもかかわらず、盛大な拍手を浴びたが、それは少なくとも三人の出演者ホルトキャンプ、クルツェ、シルトの卓越した演技に対するものだけとは限らなかった。

プリンツ一等兵曹の指導のもとに稽古を積んだ「大理石グループ」が、最後を務めた。舞台照明は素晴しく効果も倍增したが、残念ながらアンコールの要請にもかかわらず、二三のグループは舞台に姿を現さなかった。

新教礼拝

今日、牧師シラー博士殿がわれわれの収容所を再び訪れ、新教の礼拝を行うことになっている。

なお誰もがよく覚えていようが、シラー博士殿が最近旅する途上ここへ伴なって来たマーガレット・シラーさんとクララ・ゲデケさんがクリスマスの贈り物として、戦役詩集をわれわれに贈ってくれた。この素敵な贈り物に対する感謝の気持ちを表すため、この収容所で作られた以下の詩を、親切な二人の送り主に対するお礼としてシラー博士殿にことづてしていただく。

われらの愛するドイツ女性。
さあ詩を作ろう、歌を唱おう
ドイツ女性の愛と誠実さの唄について
私のリラに歌わせよう。
東方のこの地にいる婦人たちと娘たちについて
彼女たちはわれらを喜ばせ、元気を与え
いろんな贈物を送り届け
しかも書物を送ってくれた！
その中にあるのは柔らかな手で書かれた
いくつものよく考えられた歌と詩であり
ドイツ人の勇気と英雄的な精神について
ドイツ人の誠実さとドイツ人の勤勉さについてだった。
家庭から遠く離れて勇敢に闘う戦士について
戦闘の長さや突撃の嵐について、
ドイツ人の英雄的行動についてだった！
これらすべての歌を作るために、
彼女らは労をいとわなかった。
それゆえわれわれはすぐにも準備し
それらを印刷に回した
その結果この収容所にいる誰もが
辛く悲しい時に
崇高なドイツの詩を読むと
故郷を再び見出した。

それゆえわれらは感謝を捧げよう

ドイツ人女性の愛に対して

そして希望を持つのではないか。われらは彼女たちと共にやがて
名誉ある平和を眺めることを。

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 81 問の解答

1. Te6 - e3 Kb5 x b6
2. Te3 - e5 詰み
1. Kb5 x b4
あるいは他の手も
2. Te3 - b3 oder e5 詰み

第 82 問の解答

1. Le7-f5 Kc5-d5
2. Db8 x b4 Kd5-c6 (e6)
3. Sf5-e7 (Db4-e4) 詰み
1. Kc5 - c6
2. Db8 x b4 任意の手
3. Db4 - c4 (Sf5 - e7) 詰み

第 82 問、その他の解答

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1. c7 - c6 | 1. d6 - d5 |
| 2. Sg4-e3 d6 - d5 | 2. Sf5 - d4 Kc5 x d4 他の手も |
| 3. d3 - d4 詰み | 3. Db8 x b4 (f8, a7, Sd4 x b3) 詰み |

正答を寄せたのは、ヨーゼフ・ヴェーバーである。

第 83 問

白 : Kb6, Dc8, Sd5, e4, Ba4, e3, g5

黒 : Kc6, Sa8, Sb8, Lc7, Ba5, a6, g6

2 手詰め

第 84 問

白 : Kh3, Db3, Ta4, Le5, Sc4, Ba2, b5

黒 : Kd5, Ba3, b6

3 手詰め

カバレット・ミモザ

以下のような通知があった。

本日 30 日、カバレット・ミモザの第二回講演の夕べが開かれます。新しいメンバーと契約することによって、プログラムを多彩に増やすことが可能となります。さらにわれわれは出し物を入念に選ぶことによって、あらゆる人に何かを提供できればと願っています。

同封のプログラムと一緒に、カバレット新聞が入口の係員によって無料で配布されますが、われらが同胞の中の裕福な方々から少し寄付があれば、費用を補うためにも嬉しいありがたいです。プログラムに載っている人物の傍らに置かれた小箱は、そのためのものです。夕方の査閲に引き続き、7 時 30 分に開始します。取り違え等を防ぐために、ウール製毛布をひとつの班につき一枚ずつ消防隊に渡すよう願います。当然のことですが、毛布の損傷・紛失の責任は彼らにあります。そしてまた、6 時 30 分にはテーブルを並べるのを手伝って下さい。ホールの支配人は椅子類を用意しますので、彼の指示に従って下さい。

演劇部

愛するアンナ！

もしかしてロシアの熊を繋ぎたいなんてほらを言いたいのかなと君に尋ねたいので、僕はペンを取る。というのは、君がレーマン家のヴィリーについて述べていることは、とんだお笑い草だからだ。愛する友よ、僕はやっところを使ってズボンをはくとか、そうしたことを信じるとか、そんな人間では決してなかろう。そうではなく、僕は実戦の経験がある人物なのだ。そうした人物は野兎がどのように走るかを知っている。だから、レーマン家のヴィリーが今ではアイスパイン¹でロシア軍をやっつけたと言っても信じることはできないんだ。彼はアイスパインを長い釣り紐で結び、敵の壕へ投げつける。愛するアンナ、ヴィリーは、自分よりも馬鹿な奴らをこの餌で釣るというわけだね。ロシア軍がアイスパインに手を伸ばそうとするや否や、レーマン家のヴィリーは素早くそれを引っ込めるという馬鹿げたことをしたという具合に。するとそれに釣られたロシア軍が走り出てきて、彼はロシア軍をたやすく根絶やしにするというんだね。そこで僕は君に報告しなければならない。そんな冒険譚で引っかけられるのは、料理女だけだと君に言わねばならない。しかし、軍事的知識のある戦略家は肩をすくめてこう述べる。これは胡散臭い計画だ、と。

また、君は次のことを考えてはならない。西部戦線のわれわれが、フランスのムッシュたちに甘いもんだから、見掛け倒しだなんて思わないでもらいたい。われわれは違う。われわれはモスヨーをお仕置きしてやりたくてうずうずしているところだ。そういうわけで、ぼくは哨所から抜け出していったが、これがばれたら大変かもしれない。

愛するアンナ！ 密偵くさいやつと話をするときには、このことは黙っていてほしい。これからはなすのは馬鹿話で、兵隊はそんな話を禁じられているから。ただそうなった原因は、歩哨に立った僕が木登り猿みたいなフ

1 塩漬けた豚の骨付きスネ肉をじっくり煮込んで作るドイツの家庭料理。

ランス兵を発見したことにある。そいつは機関銃を用いてすでに長い間われわれを怒らせていた。しかし、そいつはオークの木に登って隠れ、こっちからは見えなかった。兵隊（軍人）ならこんな卑怯な真似がわかったら、はらわたが煮えくりかえるだろう。ここまでくれば、どうして僕が哨所から抜け出していったかわかるだろう。それはこういうわけだ。哨所を敵に感ずかれてはいけないので、発砲は禁止という通達を受けていたから、「ちょっくら向こうに行ってみるか」とぼくはひとりごとを言ったのだ。

愛するアンナ！ 実際、世界大戦は深刻な事柄だが、そのうちそれが気晴らしを与えてくれるなら愉快だ。僕は一緒に複哨に立っている一年志願兵に合図を送り、差し足忍び足でオークの木がある場所へ行った。その木は生い茂った藪に隠れていたの、フランスの猿野郎は見つかる危険がなかったわけだ。愛するアンナ！ 僕はやすやすとその木の根元に辿り着いた。そこには梯子が架かっていて、その上方はフランスの猿野郎の、すなわち機関銃射撃手の隠れ家になっていた。それは木の枝で作られた小さな小屋だった。そこで、僕はリスのようにするすると梯子を登り上がって見ると、その小屋には5人のパーレヴーがいた。機関銃もあった。愛する友よ！ 木の上の小屋に5人いたので、僕は実に心が浮き浮きした。たった一人ではなかった。愉快でたまらなかったのだ。それは、兵士が自分の義務を果たしたときに与えられる純粋な喜びといえるだろう。

愛するアンナ！ 君はこの便りを読むや、きっと笑ってしまうだろう。というのは、ひとりが僕を戦友だと思い込み、景気づけに一杯やれよと半瓶のボルドーワインを戸口に差し出したからだ。僕は遠慮なくそのボルドーワインを手で掴んだ。そうして、こう言った。うん、じゃあ乾杯（プロスト）！ それは、一滴でも落としたら残念至極というほどの上等なブランドだった。しかし、僕が（ドイツ語で）「乾杯（プロスト）」と言ったのは間違いだった。というのはパルレヴーたちが怪しみ、鳥の巣〔木小屋〕から覗き見たからである。ひょっとして彼らは狂犬病に罹ったように怒り狂ったかもしれない。というのは、ドイツの一等兵にボルドーワインをたっぷりご馳走

してしまったことに彼らは気づいたからである。素すぐにやつらのひとり
がはい出てきたと君に書かねばならない。僕そいつは下から僕の腕に一
撃を喰らわせたので、口に含んでいた瓶に当たって歯が一本とれた。しか
も、ボルドーワインが僕の顔にかかった。制服にも。顔も制服も、しこた
ま酒を飲んだかのようになった。それからどうなったかは君も想像できる
だろう。僕は今や人生の厳しさを思い知らせんがために、パルレヴーの頬
に一発喰らわせた。愛するアンナ！そのため、そいつは撃たれた鴨のよう
に落ちていった。それから僕は、他のやつらとのお楽しみのために、小屋
に入った。

愛するアンナ！そうすることで、小屋のなかは面白くなったかもしれない。
というのは、パーレヴーたちが抵抗し、僕はその中の一人を壁が壊れ
んばかりに投げつけたからである。同様に、もう一人を床に投げつけた。
その結果、それらは粉袋が落ちるように木から落ちて行った。しかし残念
なことに、僕は四つの手を持っていない。そのおかげで、パルレヴーたち
の最後の二人は木の上の小屋から逃れたのだ。愛するアンナ！ 一人は
枝をつたって長々と虫みたいに這って行った。もう一人は梯子を伝って
降りたが、途中でそれを踏み外した。僕は機関銃をつかんでそれを下へ投
げつけた。やつはこう思ったかもしれない。「機関銃が頭に落ちてきたら、
死ぬほどおかしい笑い話、じゃ済まないな。」愛するアンナ！そこで今、君
は独り言を言うだろう。：全てうまくいったのだ！と。だが、そう思っ
てはいけない。まだ枝を這っていたあのムッシュがまだいたのだ。これが容易
に目に飛び込んだ光景だと、今君に告白しなければならない。というのは、
長くなってずるずる滑っている間、その背後に僕はいたからである。する
と、パルレヴーは非常に激しい調子のフランス語で口角泡を飛ばしながら
僕に語りかけた。君はきっと信じることができるのだが、僕も黙ってはい
なかった。僕はその猿に対し、われわれの母国語でドイツの立場をはっき
りさせた。だが、その文句内容は君に書くことができる程清らかなもの
ではない。するとそのパーレヴーはもっと向こうに滑り、ぼくもあとに続い

た。そのパルレヴァーはこくり棒を手に入れ、乾燥した木切れを投げつけた。それで僕は木の枝を折って棍棒を作り、そいつに出来そこないの両親でさえしないような仕置きをした。そのため、その猿はさらに枝の端の方へ移動した。僕はその後を追った。枝は重さに持ちこたえることができなかったことが君には分かるだろう。その枝は突如激しい音と共に折れ、猿はドスンと落ちた。

愛するアンナ！僕もその後が続いて落ちた。おそらく、そのパーレヴァーが鏡を覗いたらビックリしたに違いない。というのは、僕は非常に激しく彼の顔面の上に乗ったので、その顔は団子のような形になったからである。そのため、それから僕は足を引き摺りながら歩哨の持ち場に戻った。だが、持ち場から抜け出したことはばれなかった。そうならないためにも、不自由な足を引き摺って歩く理由を知ろうとした中尉殿に対し、少し坐骨神経痛を患ったにすぎないと僕は報告した。

愛するアンナ！そのようにしたのは、僕が愚か者ではないからだ。そこにやってきて、ロシア軍をアイスバインでやっつけたなどという愚か者では。そうではなく、僕は堅実な意図と頑丈な拳を持った人物である。そのことに、君は再度おそらく気づくだろう。その言葉で君に心からのキスを贈る。

ハインリヒ・クネチュケ



皇帝誕生日

もしもし、そこにいる君たち元気かい？



それは大きく活発な動きであった。

音楽を伴った旗の輪舞は

その次に演劇があり、

大理石グループやもっと

たくさんの者が

舞台の幕の後に大騒ぎ

したので、

鏡が粉々に壊れた。

弁償しなければ

ならないとなると、

いやだなあと、

ヨーゼフは思った。

それで、映像として

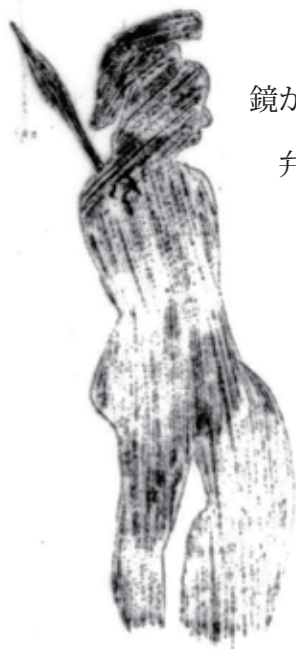
自身が壊れた鏡の背後に廻った

非常に素早く次々に

順繰りに廻った

そこで私は思うのだが、誰もがきっと

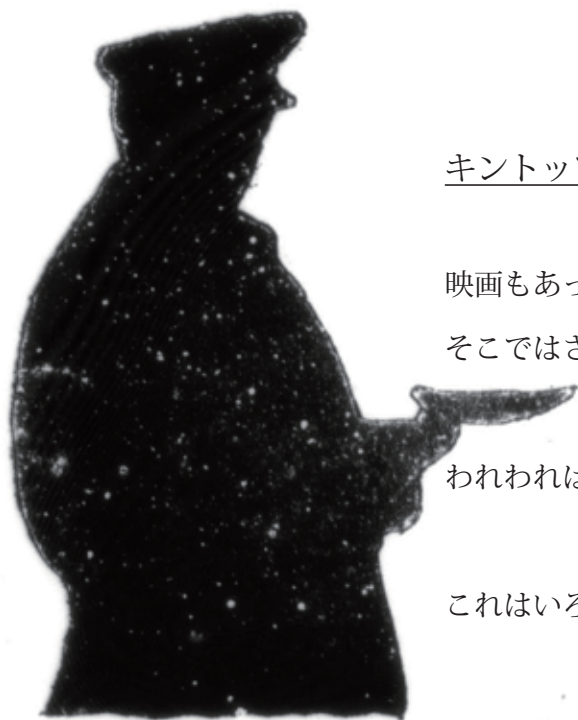
自分なりに愉快地時を過ごす。





滑稽劇

『壊れた鏡』から



キントップ映画館

映画もあった

そこではさまざまなものを

見ることができ

われわれは春、秋、冬と

心躍らせる

これはいろいろな映像を提供し

黒色や種々に変化に富む色彩豊かな
あれやこれや、さまざまなものを見ることができた
ある男からもらった肉が
通路に長々と横たわっている
われわれの愛する豚の肉が
それはここの収容所の誇りとなった
毎月規則的に支払われる金について、長靴の
手入れについて
惨めな時代について、貸し借りについて
時間は十分に与えられていた
われわれが新しいこと全てを身につける以前に
守衛がドアを開け
映画は終了し
われらは帰路につく。